

世界を結ぶ対話録

3面から続く

交流の足跡

二人の出会いはい、1967年10月、東京で行われた学会の文化祭だった。松下幸之助氏には、阪神甲子園球場で従業員の運動会を開いた経験がある。この日、二人が織りなす演出に驚嘆した。とりわけ心に染みわたるのは、池田先生の氣遣いだった。

大行事のさなか、担当者を通して何度も「都合はありますか」と挨拶があった。氏は「本当に人を大事にし、人間尊重に徹しておられる」「日本の柱ともなる人だと思った」と夢想している。

翌月、氏は来日した歴史家・トインビー博士から尋ねられた。「これからの日本にとって一番大切な人は誰か——氏が挙げた名前は「池田大佐」だった。

「経営の神様」と仰がれた氏の人生、家業の継承もあり、肉親との死別、病累、事業を興した後も、大恐慌、終戦時の財産喪失・公職追放、不況……と苦難の連続だった。そのたびに立ち上がった。

「もうあかんと思ったことがない」と語る氏は、物心一如の繁栄による平和と幸福を目指したP.H.P.研究所を発足、問題意識は、日本の「国家の理念」へと向かい、正しい人間観の確立を訴えた。その目的は、偏見に惑わされず、創価学会の価値を疑っていた。ある社内行事の時、上司が学会員である部下に対して、こうさげすんだことがあった。「この人、南無妙法蓮華經でござい。それを聞いた松下氏はこう返す。

「この君は信心持ったものやないか。君は何が宗教持ったものか。さらに誰の前で、この部下に「信心をしっかりと勉強して、わたしに教えてくれよ」と語った。

71年2月、氏から入を介して連絡があった。「池田先生に、どうしてもお会いしたい。当時、氏

かつてない難局は、かつてない発展の基礎に

は76歳。病院で療養中にもかかわらず、「いつでもどこでも行かせていただく」との意気込みがあった。4月に対談が実現。氏は、志なき日本社会への憂慮を語った。

先生は、「人間の心に正しい哲学を打ち立ててこそ、世界の繁栄と平和を望める」との「立正安国」の哲学を語った。氏は深く共感した。「根本は人間だ。人を育てなければならぬ」と、二人の意見は一致した。帰路、氏をねぎらう同行者に、氏は満面の笑みで語った。「いや、むしろ元気がなくなった。ほんまに楽しかった。先生からは、日本と世界、人類に対する慈愛が感じられるんや。二人の交流は続き、会談は30回を超えた。請われて、先生が御書講義をしたこともあった。

語らうは書でも続けられた。「死をどう考えるか」「エントロピー増大の法則」「政治の目的は何か」「人種差別をなくするには」「愛国心について」「アジアは共通の基礎にたつて」「等々、人生と社会の本質に迫る鋭い知見の応酬。語り合ったテーマは300を超える。その内容は74年から『週刊朝日』で連載され、翌年、『人生問答』として出版された。先生が第3代会長を辞任した翌年の80年、会費を終え、氏は先生の手を固く握った。先生の手に力を感じたという氏、宿念に戻ると周囲に語った。

「この法難を乗り越えれば学会は十倍にも発展する。かつてない難局は、かつてない発展の基礎になる。こそ全力で先生をお守りし、学会の基礎を固くする時だ」。激動の世紀を駆け抜けた氏は、生前、何度も強調したという。

「21世紀になると、池田先生の教えが中心になって、世界が回るようになる。それまで生きて生きて、何となくの目で見届けたい。そのためにも21世紀まで生きねばならぬ」。



芳名録に記する松下手之助氏(1908年12月20日、東京、資の歴史教育館(当時)で)

「用・参考文獻 松下手之助 池田大佐 著『人生問答』(池田大佐全集)第22巻、聖教新聞(2005年11月30日付)09年4月7日付、20年6月1日付、22年12月16日付、23年1月6日付、ほか

みんなの声をお待ちしています！



セイちゃん オーちゃん

今月20日で創刊75周年を迎えた聖教新聞。ここでは、75周年ナビゲーターのセイちゃん、キョウちゃん、オーちゃんが、どんな進化し、充実していく聖教新聞の「これから」を紹介します！

創刊から75年

もっと進化する聖教新聞

電子版はいろいろ楽しみ方があるね！



キョウちゃん

1. もっと便利に

ますます充実する電子版コンテンツ

- 「青春対話」の朗読音声を配信！
- 「人間革命」の研さんコンテンツ
- 「自然との対話」デジタル写真集

2. もっと面白く

新しい企画紙面が続々！

- 「青春対話」をアロのナレーターが朗読！
- 「人間革命」の研さんコンテンツ
- 「自然との対話」デジタル写真集

3. もっと身近に

読者と共につくる新聞へ

- 「任用試験」教材 全文を音声配信
- 「SEIKYO CAMPUS」

文化は平和への扉

東京富士美術館や民主音楽協会の創設など、池田先生が「文化・芸術こそ平和の基盤」との信念のもとに展開した文化の戦いの軌跡に迫ります。

グローバル新時代

日本で活躍する外国人のメンバーや、自らの地域で共生社会の創出に挑戦する日本人のメンバーなどを紹介します。

誓いの大道を歩む

小説「新・人間革命」に学ぶ 研さんの一助となる内容を1巻ごとに紹介します。各巻を象徴する地域の代表の手記も掲載予定。

SOKAの現場 海外編

社会学者の開沼博氏が直接取材し、創価学会の社会的価値を考察する企画「SOKAの現場」の海外編。第1弾は韓国編を予定しています。

聖教公式

LINEアカウントを開設 聖教新聞公式のLINEアカウントがまもなくスタート。読者の声をもとにしたコンテンツ制作を始めます。社会課題などについての投稿を募集。読者と一緒には聖教新聞をつくっていきます。

交流イベント

「Sスタ」がスタート 有識者と学会リーダーが語り合う対談や、読者参加型のイベントを開催します！ご参加をお待ちしています。

創価新報がリニューアル

本年5月号から、紙面を現役世代向けにリニューアル。「将来の不安」「働き方」「子育て」などの特集記事や、悩みに立ち向かう現役世代のルボを毎月掲載していきます。



輝く瞳の先にあるもの。

何か大きなものができる。
何か新しいものができる。
何か素敵なものができる。

そんなワクワクを
私たちは、いつも、いつまでも
忘れないようにしたいと思う。

子どもたちに誇れるしごとを。



SHIMIZU CORPORATION

清水建設